

事業所における自己評価総括表（公表）

（保育所等訪問支援・在籍園との連携）公表日：令和8年3月17日

事業所名	伊豆市児童発達支援センター
保護者評価実施期間	令和8年1月8日～令和8年1月23日
保護者評価有効回答数	（対象者数） 8名 （回答数） 6名
従事者評価実施期間	令和8年1月8日～令和8年1月23日
従事者評価有効回答数	（対象者数） 5名 （回答数） 4名
利用児在籍園評価実施期間	令和8年1月8日～令和8年1月23日
利用児在籍園評価有効回答数	（対象者数） 4園 （回答数） 4園
事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月10日

分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<p>保育所等訪問事業において児童発達支援が併設されていることが強みである。</p> <p>在籍園の先生方からも「困りごとをすぐに質問でき、日々の保育に活かせる」「対象児だけでなくクラス運営の環境設定にも繋がった」と評価されている。保護者・園・おひさまの三者で支援法を共有できる体制が整っている。</p>	<p>連絡ファイル（ピンクファイル）を活用し、おひさまでの様子や具体的な支援方法（褒めるタイミングなど）を在籍園へ伝えている。いろいろな視点から児童を理解する工夫を行っている。</p>	<p>この三者連携の仕組みをさらに強固なものにする。在籍園の先生方からの「いろいろな視点で理解していくことが重要」という声に応え、今後も密な情報交換を継続し、地域で頼られる機関としての役割を果たしていく。</p>

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考える課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<p>在籍園から「個別対応は詳しいが、集団の中での対応方法をもっと教えてほしい」「園とおひさまでは環境が違い、提案された方法が園では実践できないこともあった」というご意見があった。また、保護者からは「園での様子や具体的な支援内容が見えにくい」という声が挙がっている。</p>	<p>おひさま（個別・小集団）と在籍園（大集団）の環境や体制の違いを十分に把握できなかったことが課題の要因である。また、保護者が訪問支援を直接見学できないため、支援内容が実際の園生活と結びつきにくくなっている。</p>	<p>①在籍園に対しては、園の環境でも無理なく実践できる集団へのアプローチを一緒に考え、提案する。</p> <p>②保護者に対しては、集団の中でどんな意図で支援したかを具体的なエピソードで報告し、園生活が想像しやすい言葉で説明する。</p>